

第2部 随筆(作文) テーマ「秋祭り」

小中学生の部

タツノコ賞

温かい心

長野県山ノ内中学校三年

徳竹亜巳

祭りのイメージといえば、笛太鼓、神輿、屋台に大花火、色鮮やかで、華々しいもの。だから、山村の秋祭りも、鮮やかな紅葉の中で、たくさん屋台が並び、綿菓子やおでんに舌鼓を打つ……そんなイメージでした。

私の住んでいる地区の秋祭りは、毎年九月中旬に行われます。九月中旬と聞いて、すでに、あの鮮やかで華々しい私のイメージとは違い、収穫の秋の入り口だと気づきました。思い出せば、戸数も子ども的人数も少ない山間部の私の住んでいる地区では、小中学生も、秋祭りの担い手として参加します。氏神様に奉納する「踊り」で参加します。

私も、小学校六年生の時に、その体験をしました。

秋祭り本番の二か月前、私を含め小学生が三人、中学生が一人、四人でその踊りを練習する会が開かれました。ちょうどその時女子二人、男子二人でした。教えてくださった方は、「これなら分けやすいな」と言つて、私たち女子には金属のお椀のような物、男子には大太鼓、小太鼓を用意してくださいました。「踊り」といっても、太鼓のリズムに合わせて、飛び跳ねながら、頭の上でお椀をカチャカチャ鳴らす踊りです。本番までに四回ほど練習しました。

いよいよやってきた本番。地区をぐるっと練り歩き、神社でゴール。歩きながら踊る私たちは、大人の笛に囃し立てられるようにしながら踊り続けました。

神社に着いた時にはヘトヘトでしたが、地区の皆さんのアンコールで、ステージでも踊ることになりました。手拍子をしながら、楽しんでくれている地区の皆さんを見て、私も疲れながら嬉しくなったのを覚えています。

「お疲れ様、頑張ったね。」その言葉で、私には大きな達成感がありました。小さな地区だけど、一人一人の心の温かさや絆を改めて感じる事ができました。肌寒い時季でも、私の心には、ぽっと温かい火が点りました。